

2018年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2018年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、特進、進学系列それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。

まず、全体的な特徴から見ていくと、1つ目に学年が上がるにつれ各質問項目への肯定的な回答の数値が上がっています。以下に例として、授業内容についての質問項目④、⑨、⑩について、前年度と比較した回答の数値を示します。

④授業は分かりやすいですか

		2017			2018	
分かりやすい	特進1年	進学1年	➡	特進2年	進学2年	
	62%	64%		72%	72%	

⑨授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか

		2017			2018	
興味が深まったと思う	特進1年	進学1年	➡	特進2年	進学2年	
	41%	49%		53%	58%	

⑩授業を受けて、学力がついたと思いますか

		2017			2018	
学力がついたと思う	特進1年	進学1年	➡	特進2年	進学2年	
	41%	49%		51%	58%	

これらの結果から、生徒たちは学年が上がっても学習に対する意欲、関心を失うことなく維持し続けているようです。質問項目⑤～⑧に対する肯定的な回答の数値も上がっていることから、生徒たちは授業に臨む教員の姿勢に触発されて、それに応えてくれているようです。

2つ目の特徴として、ほとんどの質問項目に対して本年度はコース・学年に関係なく、肯定的な回答の数値が例年と比べ高くなっていることです。スペースの関係上、⑤、⑥、⑧の質問に対する特進の回答を、昨年度の同学年の数値と比較してみます。

⑤授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか

		2017			2018	
工夫されている		特進1年	特進2年	➡	特進1年	特進2年
		67%	72%		79%	76%

⑥授業は、生徒の疑問や質問にきちんと答えていますか

		2017			2018	
きちんと応えている		特進1年	特進2年	➡	特進1年	特進2年
		72%	75%		84%	79%

⑧授業は、先生と生徒の心が触れ合うものとなっていますか

		2017			2018	
触れ合うものとなっている		特進1年	特進2年	➡	特進1年	特進2年
		55%	53%		68%	67%

2018年度の1，2年生とも比較的落ち着いており、授業態度にもその雰囲気は反映され、前向きに取り組んでいる生徒が多いのが、授業に対する肯定的な回答の多さにつながったようです。

次にそれぞれの質問項目について考察していきます。

①「黒板の字は大きく読みやすいですか」の質問に対して、9割前後の生徒が「ちょうどよい」と回答しています。ただ、板書についてはテクニックを必要とせず、教員の心がけ次第で、適切な大きさと読みやすい字は書けるので、まだ数値を上げていくよう取り組みます。③「授業のスピードはどうですか」の質問には約8割の生徒が「ちょうどよい」と答えたものの、「もっとゆっくりと」と回答した生徒も十数パーセントおり、生徒の理解力に合わせた授業展開の難しさがうかがえます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問には、7割前後の生徒が「分かりやすい」と回答しており、「どちらかというと、分かりやすい」の回答も含めると90～95%となっています。この数字は⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に対する回答の数値とほぼ対応しています。教員が授業に参加しやすい雰囲気を作ることで、生徒が授業への参加意識を持ち、自ずと教員の話に耳を傾け、授業に集中することになり、それが結果的に授業内容への理解力を高めたと考えられます。⑤「授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか」、⑥「授業は、生徒の疑問や質問にきちんと答えていますか」の質問に対する回答の数値が高いのも、生徒が授業に対して参加意識を持っているからこそ、教員の授業への工夫に気づくことができ、授業を受けて多くの疑問がわいた結果だと思えます。

⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」、⑩「授業を受けて、学力がついたと思いますか」の両質問に対する回答の数字もほぼ対応しています。それぞれの質問に対する回

答は、「興味が深まったと思う」「どちらかという、興味が深まったと思う」の回答が約9割、「学力がついたと思う」「どちらかという、学力がついたと思う」の回答も約9割となっています。教員が興味・関心を引く授業をすることによって、生徒も知らず知らずのうちに授業にのめり込み、それが学力向上につながったと考えられます。⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対する回答、「理解できる」「だいたい理解できる」も⑨、⑩の回答の数字と対応しても不思議ではないのですが、なぜか回答の数字が少し下がります。学校での授業内容を定着させるためには、家庭での反復学習が必要と言えそうです。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

生徒は学年が上がるにつれ、社会性を身につけていきます。例年、授業前の準備についての①～④の質問項目では「守っている」と答える生徒の数値は学年が上がるにつれ上昇していました。ところが、1年生は「守っている」と答えた数値が、2年生と拮抗しており、質問項目によっては上回っています。授業アンケートの数値も例年より高かったことから、1年生の授業に対する意識、関心の高さもうかがわせる結果となっています。

授業を受ける態度についての自己評価では、「授業中にノートをとる」の質問に対して、「守っている」と回答したのは進学系列では75%以上となり、特進では90%に迫り、自己評価アンケート中、一番高い数値となっています。この理由として、どの教科も授業ノートは教科担当者が平常点をつける際に大きなウエイトを置いているためと思われる。

⑧「授業中にほめられることがある」の質問に対する回答で、「あまりほめられたことがない」「全くほめられることがない」の数値が高いですが、この数字を改良するために教師がクラス全員に対して一斉に講義をおこなう授業スタイルに、一部アクティブラーニングを取り入れるなど生徒たちに主体的に活動させる工夫が必要と言えそうです。そうすることにより⑨「授業に積極的に参加している」の質問に対する回答「積極的に参加している」「どちらかという積極的に参加」の数値が示しているように、生徒の授業への参加意識は高いので、さらに授業に積極的に参加してくれることになりそうです。

⑩「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」の質問には、コース・学年に関係なく約7割の生徒が「守っている」と回答し、「大体守っている」の回答を合わせると95%となっています。良い授業を成立させるには教師の努力はもちろんですが、生徒が良い心持ちで授業に臨むという協力も不可欠です。生徒には今後もこの姿勢を続けてもらいたいと思います。

学習についての自己評価の質問⑬「1日に家庭学習をどの位していますか」に対しては、特進の方が進学系列より高い数値となっています。ただ、大学進学のために必要な学習時間は高校1年で2時間、高校2年で3時間が必要と言われていきますので、各学年あとプラス1時間、学習時間を確保してもらいたいと思います。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

まず、教員の生徒に対する指導についての質問、⑮「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、⑯「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」、⑰「この学校の生徒指導は、適切であると思う」、⑱「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という回答がほとんど8割を超えています。その中でも⑯「この学校の

先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問に対して、「よくあてはまる」の回答が多くなっており、「ややあてはまる」まで含めると9割以上となっています。教員の丁寧で、生徒が理解するまで粘り強く指導する姿勢を生徒が評価してくれているようです。⑮「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、⑯「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」という質問についても、「よくあてはまる」の数値が高くなっています。いじめの取り組みについては、人権教育推進部が実施しているクラス・クラブ対象の年間5回のいじめ調査などを評価したものと思われます。進路情報に対する高い評価は、進路指導部による大阪産業大学との高大連携プログラム、職業・分野別説明会、特進コース2, 3年の生徒を対象に実施している関西大学見学会、グローバルコース2年の生徒を対象に実施している関西外国語大学見学会などの取り組みを通じ、生徒に大学、学部、学科、職業について学ぶ機会を多く作っているのが理由だと思います。「私は、進路について目標を持って毎日の学校生活を送っている」という質問に対しても、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と7割の生徒が回答しているのも、教員の生徒への進路情報発信の成果の表れと言えそうです。

次に生徒の学校生活についての質問、「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」、「この学校は、生徒が清掃にしっかり取り組んでいる」に対しては約9割の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、本校生徒が学校生活に対して前向きに取り組んでいる姿勢が良く表れています。「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対しては、進学系列では1, 2年生とも「よくあてはまる」と65%の生徒が回答し、「ややあてはまる」まで含めると約95%となっています。進学系列の生徒は運動部への加入率が高く、クラブで身につけた挨拶を自然と行えます。生徒が挨拶を自然にできるのは、本校の大きな長所なので、今後もこの校風は伸ばしていきたいと思います。しかし、「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」、「この学校の生徒は、校則を守っている」の質問に対しては、「よくあてはまる」の回答の数字が他と比べると低くなっており、けじめをつけることが課題と言えそうです。